



野鳥の 不思議解明 最前線 #84

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2012

アオバズク *Ninox scutulata* のつがい。夜行性の彼らもつがい相手の選択に匂いを使っていたりして 撮影●内田博

嗅ぎなれない匂いが好き？

～血縁のない個体の匂いを好むヒメウミツバメ～

先日、5～6年前に長崎に旅立って行った猫のトマさんが、うちに帰ってきました。もう以前ここに住んでいたこと忘れてしまったかな…とちょっと心配でしたが、到着後、家の中をひとしきり嗅ぎまわった後は、もう我が物顔。以前と変わらぬ様子で暮らしています。「お手」など芸はちょっと錆びついた感じですけど。

さて、ネコだけでなく、昆虫を含め多くの生物は、嗅覚で様々な情報を得たり、伝達したりしています。しかし、鳥はあまり嗅覚が発達していないとこれまで思われてきました。けれども近年の研究では鳥も意外と匂いがわかることが報告されています。この連載の54号でも書きましたが、捕食者の存在を匂いで感知していたり、獲物のいる場所を匂いで探索したりと、嗅覚を様々な場面で使っていることがわかってきました。

近親交配を避けるためには、相手が近親の個体なのかどうなのかを何らかの方法で認識する必要があります。多くの生物はそのキーとして、匂いを使っていますが、鳥では鳴き声や姿の目視により判断しているという報告はあるものの、匂いについては知られていませんでした。Animal Behaviour 誌の最新号に、ヒメウミツバメ *Hydrobates pelagicus* が匂いを使って近親個体を認識している可能性が報告されていたので、ご紹介します。

この研究を行なったのはスペインにあるヒメウミツバメの繁殖地で調査している Bonadonna さんた

ちのチームです。彼らはY字型の道をつくって、片方には近親の鳥（兄弟か親）の匂いのついた綿を、もう片方には関係のない鳥の匂いのついた綿を置き、ヒメウミツバメがどちらを選ぶかを実験しました。すると、雄も雌も自分と関係のない鳥の匂いが漂ってくる道を選択することが多いことがわかりました。

つまり、匂いにより近親個体を避ける能力をヒメウミツバメは持っていて、おそらくそれが近親交配をさけることに役立っているのではないかと、Bonadonna さんたちは考えられます。

夜になると繁殖地に戻ってきて、そこでつがい形成をするウミツバメなどの海鳥は、目視でつがい相手を選択することが難しいように思います。そこで使えるのは、音と匂いになります。同所的に繁殖するオーストンウミツバメ *Oceanodroma tristrami* とコシジロウミツバメ *O. leucorhoa* では声が多々違うそうです。もしかすると、鳴き声は他種とつがわれないように、「似た声を出す鳥」を選ぶように使い、匂いは近親交配避けるために「違うものを選ぶ」など、信号を上手く使い分けたりして…。今後の研究の発展を楽しみにしたいと思います。

紹介した論文

Bonadonna, F. & Sanz-Aguilar, A. (2012) Kin recognition and inbreeding avoidance in wild birds: the first evidence for individual kin-related odour recognition. *Animal Behaviour* 84: 509-513.